

# 一般質問通告書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

令和元年5月30日  
東村山市議会議長 あて

議席番号 6番  
質問者 下沢 ゆきお

## 記

### 1. 第二保育園閉園後の利活用について

東村山市立第二保育園の民間移管により、その管理・運営を引き継ぐ新たな保育園「萩山まるやま保育園」が本年4月に開所したところであります。ただ、経過措置として、まだ一部の園児が引き続き通園している状況にあります。このような中、地域住民の関心は、第二保育園閉園後の同施設の利用にあります。

同園は、南側には東村山福祉園・希望の郷東村山、北側には萩山第二児童遊園に隣接し、同公園内には萩山集会所もあり、緑豊かな閑静な住宅街に立地しています。

そこで、以下質問します。

- (1) 平成30年度自治会調査において、地元自治会から、第二保育園の民営化後の同園の利活用について、市の方針等を伺っています。それに対する、市から自治会への回答はどのようなものであったかを伺います。
- (2) その後の検討状況を伺います。
- (3) 地域では、子供から高齢者まで寄り会える地域における住民の交流拠点施設として利用できないかと要望しているところでもあります。耐震補強工事も行っており、市として、現存する建物をどのような機能を持った施設として活用していくのか、また、公共施設の複合化・多機能化として建て替えるのか、現時点における考えを伺います。
- (4) 総括的に市長に伺います。第二保育園、萩山憩いの家等の公共施設について、市民ニーズや社会環境の変化に対応した再生に向けた取組みについて、市長の見解を伺います。

## 2. 公共交通網による公共施設、病院等へのアクセスの改善

コミュニティバスの導入により、市民の日々の生活における移動の利便性を高め、地域の足として、社会活動への参加機会の増大につながるとともに、近隣や市の中心部の公共施設、商業施設、病院等へのアクセス性を高めることで、「みんなが快適に暮らせる、活力と魅力にあふれたまち」の実現に向け着実に進んでいるものと認識しています。

一方、一人暮らしの高齢者、高齢者世帯等が多いことから、コミュニティバスの導入の検討ができない地域においては、町内外の公共施設への移動において、不便を感じています。例えば、萩山町から市役所への移動を考えた場合、萩山駅、小平駅、久米川駅と乗り継ぎ、そこから徒歩というように、相当の時間を要しているのが実情です。新たな移動手段の検討の観点から、質問します。

- (1) コミュニティバスの導入検討地域として、公共交通空白・不便地域、徒歩・自転車移動が困難な丘陵地域が要件となっているため、導入の検討ができない萩山町地区に加え、他の地域においても同様に、コミュニティバス等の導入に係る地域住民のニーズを、どう把握されているのか伺います。
- (2) 去る5月27日に開催されました東村山市地域公共交通会議において、現在運行しているコミュニティバスについての見直しを行い、新たな移動手段としての地域公共交通の再構築に向けて、今後検討するとのことでした。市として、コミュニティバスをどう評価しているのか伺います。
- (3) 今後、移動手段のあり方について、どのような視点で検討することとなるのか伺います。
- (4) 総括的に市長に伺います。萩山町にかかわらず、市内各所において、交通不便地域は存在しています。高齢化社会に対応し、誰もが快適に暮らせる、活力と魅力にあふれたまちの実現のためにも、地域の足である誰もが外出しやすく不便を感じさせない地域公共交通網の充実整備は、市としての役割は非常に高いものと考えます。市長の見解を伺います。

### 3. 中小商工業者の活性化支援について

市内の商工業者は、地域経済のみならず、地域の雇用を支えており、地域にとって重要な役割を担っています。商工会・地域金融機関等が行う中小企業・小規模事業者に対するきめ細やかな支援のさらなる充実が必要と考え、以下質問します。

- (1) 中小商工業者の過去3年間の事業者数の推移について伺います。
- (2) 東村山市商業振興基本方針に基づき、商工会が実施した「地元のお店イチオシめぐり」について、その事業の狙いと効果について伺います。
- (3) (2)の後継事業として今年度実施する「まちゼミ」について、事業の狙いは何か、伺います。
- (4) 若者、女性、高齢者等多様な人材による創業支援は、地域の活性化には重要です。過去3年間の開廃業率の推移、新たに起業を目指す創業者に対する具体的な支援策について、伺います。